

旧 登戸福祉まつり

特集 のぼりと福祉フェス開催



登戸地区社会福祉協議会(社協)はコロナ禍の影響で3年間「登戸福祉まつり」の開催を取りやめていましたが、令和5年11月3日(文化の日)、新たに「のぼりと福祉フェス」と名称を変更して開催しました。

楽しみながら福祉に触れてみよう

「登戸福祉まつり」は4年ぶりの開催にあたり、今までは高齢者対象の色彩が強かったため、令和5年度からの「のぼりと福祉フェス」は、地域全ての年齢層を対象とした“共に楽しみながら福祉に触れてもらう”を主眼にその内容を変更。場所も例年行っていた多摩市民館大ホールから丸山幼稚園(伊藤夏夫園長協力の基)に会場を移しました。

第一部の式典は10時より2階ホールで登戸地区社会福祉協議会の松本英嗣会長が4年ぶりの開催を報告。多摩区社会福祉協議会の大澤敏夫会長、登戸町会連合川鍋賢昭会長からの挨拶、登戸10町会各町会長の参列を得て行われました。

式典終了後はその場が第2部の演芸会場となり、尺



▲バザーには電動カートでお買い物のお客さん



▲川鍋町会連合会長挨拶

八の演奏、コーラス、フラダンス、津軽三味線と民謡の演奏が続き、華やいだ雰囲気になりました。

内容を一新した「のぼりと福祉フェス」は初めての試みということで、ノウハウが何も無くゼロからの出発でした。まず実行委員会の立ち上げから始まり、どのような催しにするか内容の検討、社協の活動を知ってもらうにはどうしたらよいのか…、年齢層を問わない地域住民参加型にしたい、再出発の催しに今までの名称でよいのか…、などなど意見が噴出。委員から社協の活動紹介で車椅子や白杖の疑似体験コーナーを作ろう。社協紹介パネルを作ろう。演奏



▲家族や友達とフリマに参加

など特技の持ち主の推薦や、園庭を使い障がい者施設の生産品販売コーナーを作ろう。バザーや野菜の販売もしよう。個人参加のフリマもやってみよう。子ども会にポップコーンや焼きそばの販売の協力をお願いしよう…。どんどん出てきたアイデアを基

に今回の「のぼりと福祉フェス」の形ができあがっていきました。

園庭はバザー・フリマ・野菜販売と盛りだくさん



▲地元野菜や果物の直売

当日は晴れの特異日、文化の日とはいえ11月と思えぬ暖かな天気にも恵まれ、各出店コーナーに多くの人が集まりました。午後の園庭では「未来太鼓道場」の太鼓の演奏が始まると、その音色は圧巻で身体に直接響いてくる迫力に、聞いている人たちの心を鷲掴みにしてしまったようです。演奏終了後は惜しみない感動の拍手が湧き上がっていました。

また、キッズチアダンスグループの参加もあり、幼児や低学年の子どもたちがチアダンスを一生懸命に踊る可愛いパフォーマンスが披露され、試合でこ



上段写真 キッズチアダンス
下段写真 未来太鼓道場による演奏

んな応援をされたら選手たちは和み、頑張れるだろうと思わせるものでした。

車いす・白杖を体験してみた!

車椅子・白杖の疑似体験コーナーは障がい福祉部会が担当し、車椅子体験では自ら車椅子を動かして移動を。また白杖体験では目隠しをして白杖を頼りに園庭内を歩いてみるなど、体験を通して障がいのある方への理解を深める取り組みを行いました。

地域福祉に取り組む登戸地区社協として、初めて幼稚園を借り受けての試み「のぼりと福祉フェス」は、地域の老若男女の方たちに楽しみながら社協の取り組みに触れてもらったのではないのでしょうか。



▲車いす体験

▲アイマスクを掛け白杖を頼りに歩く